

年度 2008 学期 後期	曜日・校時 水2	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	地球と宇宙の科学(地球の気象) Earth and Space Sciences (Meteorology on Earth)		
対象年次 1・2年次	講義形態 講義	教室	
対象学生(クラス等) 全学部	科目分類 自然科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員:高木保昌/Eメールアドレス: takaki@net.nagasaki-u.ac.jp /研究室:水産学部本館3階 /TEL:095-819-2801 /オフィスアワー:水曜日1300~1500			
担当教員(オムニバス科目等)			
<p>授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標</p> <p>授業のねらい:地球上で起こるさまざまな気象現象の実態を把握し、人間にどのような影響を持っているか、地球温暖化を視野に入れながら、気象変化を習得する。</p> <p>授業方法:パワーポイント及び配布する資料をもとに講義を行う。時折、講義前日の天気図、日没を取り入れて行う。講義の内容により、気象現象に関するビデオを視聴する。</p> <p>授業到達目標:天気図を通して、将来の天気変化を判断することが理解できる。</p>			
<p>授業内容(概要)/授業内容(毎週の授業内容を含む)</p> <p>授業内容(概要) 気象現象は地球表面を完全に包み、地球上から約1万メートルの範囲で変化をもたらしている。この現象は我々が住む地上約30%と海上約70%上でたえずあらゆる方向に運動し、いろいろな現象を生み出している。この現象を把握するため、大気の構造、循環を知り、気象天気図の移り変わりを理解していく。時折、気象に関するビデオを視聴する。</p> <p>第1回 : 気象学の概要(気象学・気象歴史等)、異常気象 I</p> <p>第2回 : 異常気象 II、[小テスト]</p> <p>第3回 : 地球の大気</p> <p>第4回 : 大気の循環(第1次~第3次循環)、[小テスト]</p> <p>第5回 : 大気の安定、不安定 I</p> <p>第6回 : 大気の安定・不安定 II、[小テスト]</p> <p>第7回 : 大気の第2次循環 I</p> <p>第8回 : 大気の第2次循環 II</p> <p>第9回 : 大気の第2次循環 III、[小テスト]</p> <p>第10回 : 気象観測 I</p> <p>第11回 : 気象観測 II、[小テスト]</p> <p>第12回 : システムとして進化する天気予報</p> <p>第13回 : 地上・高層天気図と天気予報</p> <p>第14回 : 日本付近の主な気圧配置と日本の四季、[小テスト]</p> <p>第15回 : 全授業の総括</p>			
キーワード	気象・大気・天気予報		
教科書・教材・参考書	教科書は使用しない、講義には適時資料を配付する。 気象の大百科 オーム 社 海洋気象講座 福地 章 著		
成績評価の方法・基準等	授業への貢献度 30%、小テスト 30%、レポート 40%		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)	講義日の天気図、日没、を見ておくこと。		